

栃木の子どもを **グングン** 伸ばす

家庭学習のすすめ

—「自ら学び、考える」子どもを育てるために—



栃木県教育委員会

確かな学力を身に付けさせるためには、県教育委員会が示した学力向上対策の三つの柱である「教師の熱意と指導力」「子どもの学ぶ意欲や習慣」「保護者の理解・協力」が不可欠です。また、とちぎ教育振興ビジョン(三期計画)では、視点2「確かな学びをはぐくむ教育の推進」の中で、家庭において主体的に学ぶ態度を育むことの重要性について示されています。

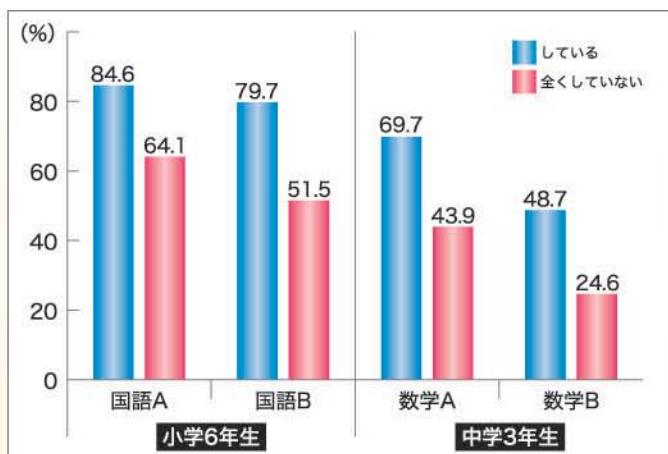
効果的な家庭学習を推進するためには、普段の授業において学習することの喜びを実感させ、授業で学習した内容と関連づけながら家庭学習を行うことが大切です。授業における指導の工夫と家庭学習の充実を図り、確かな学力を育成しましょう。

全国学力・学習状況調査(平成22年4月実施)の結果から、次のようなことが分かりました。

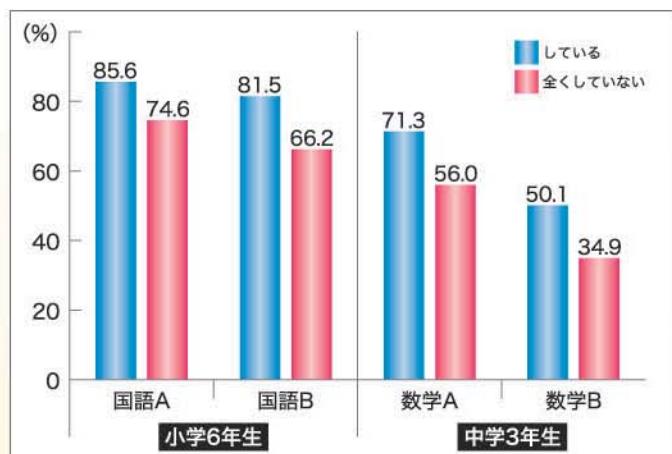
家庭学習の習慣化は、学力の向上につながります

下のグラフは、本県の児童生徒の意識と平均正答率を示しています。

Q.家に帰ってから宿題をしていますか



Q.家で自分で計画を立てて勉強していますか



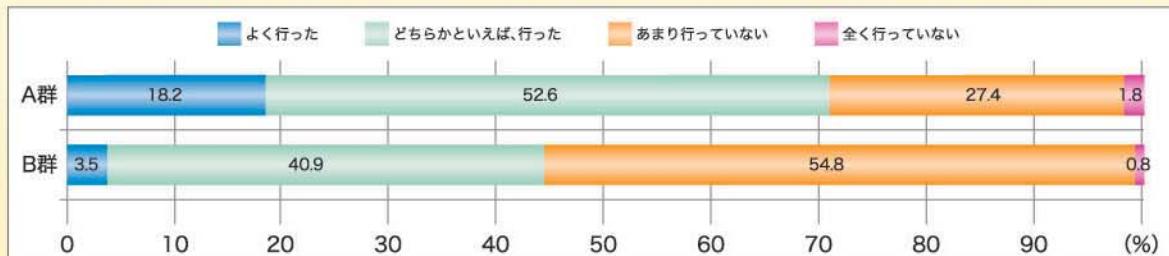
◆宿題をしている子どもは、正答率が高い傾向にあります。

◆自分で計画を立てて勉強をしている子どもは、正答率が高い傾向にあります。

宿題の内容を工夫し、学力を向上させましょう

下のグラフは、平均正答率が全国平均を5ポイント以上、上回る学校(A群)と5ポイント以下、下回る学校(B群)を比較した結果です。

Q.家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していますか(中学校)



◆正答率が高い学校群は、低い学校群に比べて、「よく行った、どちらかといえば行った」と回答する割合が多いことが分かります。

家庭学習の意義

家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、子どもが、家庭学習の効果を実感したり、意義を理解したりすることが大切です。そのためには、まず、教師が家庭学習の意義について学校全体で話し合い、発達の段階に応じて子どもに分かりやすい言葉で伝えましょう。また、保護者にも説明する機会をもつなどして、家庭と協力して子どもの学びを支えましょう。



家庭学習の意義を、子どもや保護者に伝えましょう

自らの力で未来を切り拓く力が育つ

学習の習慣が身に付き、学習内容が定着し、学習意欲が育つことにより、自分の夢や目標を実現するために、様々な課題を自らの力で解決しながら生きていける、強い意志をもった人格を形成することが期待できます。

学習内容が定着する

家庭学習では、自分の理解の速度に合わせて、繰り返し学習することができます。

授業の予習や復習をすることで、学習内容が確実に身に付きます。

学習意欲が育つ

家庭学習では、自分の特性や個性をさらに伸ばす学習をすることもできます。やり遂げた満足感、分かる喜び、学ぶ楽しさなどを味わうことで、学習意欲が育まれます。

学習の習慣が身に付く

決めた時間に学習に取り組むようにすると、生活のリズムが整い、学習する習慣が身に付き、自ら進んで学習に取り組む態度が育ちます。そのためには、計画を立てて実行させ、実行できたら個々に応じて賞賛することが大切です。

物事をやり遂げた経験は学力の向上につながります

下のグラフは、全国学力・学習状況調査(平成22年4月実施)の本県の小学6年生の平均正答率を示しています。

Q.物事を最後までやり遂げてうれしかったことはありますか



◆「当てはまる」と答えた児童は、「当てはまらない」と答えた児童に比べて、正答率が高い傾向にあります。

目標を立てさせ、課題を解決するように励ますことや、必要に応じて支援し、最後までやり遂げる喜びを実感させることが大切です。

その経験が、自信や学習意欲につながっていくと考えられます。



宿題の効果的な活用

子どもに家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、意図的に家庭学習の機会をつくることが大切です。そのための有効な手立ての一つが「宿題」です。子どもは宿題に取り組むことによって、学校で学習した内容の理解を深めたり、学習することの充実感を得たりすることができます。

そのような経験を重ねることで、家庭学習の習慣が身に付き、学習への意欲が高まります。宿題の効果について再確認し、家庭学習の習慣化のために宿題を活用しましょう。



学ぶ楽しさを実感できる宿題にしましょう

宿題を出すことによって、様々な効果が期待できます。しかし、教師がねらいを明確にした上で適切に活用しなければ、宿題は子どもにとって、単なる「義務的なもの」になったり、負担感だけが残る「つらいもの」になったりしかねません。

宿題の出し方、分量などについて、校内で話し合い、共通理解を図ることが大切です。基礎・基本の定着に加えて、子どもが学ぶことの楽しさを実感できるように、授業の内容と関連付けて、予習的な宿題や復習的な宿題を工夫しましょう。例えば、下表のような宿題の型を、発達の段階や実態に応じて組み合わせるなどして、子どもの学びを促しましょう。

一斉同一型 同一の質と量の宿題を全員に出す	一斉個別型 質や量を個人差に応じたものにする	自由選択型 宿題の例を示し、自分で選択させる
<p>例</p> <ul style="list-style-type: none">○漢字練習<ul style="list-style-type: none">・今日の授業で習った漢字を書いて覚える。○教科書を読む<ul style="list-style-type: none">・今日の授業で習ったページを読み返す。・明日の授業で習うページを読み、分からない言葉に○を付ける。○問題演習<ul style="list-style-type: none">・指定されたページの問題を解く。	<p>例</p> <ul style="list-style-type: none">○語句の意味調べ<ul style="list-style-type: none">・文章を読んで分からぬ言葉の意味を辞書で調べる。○個に応じたプリント学習<ul style="list-style-type: none">・数種類のプリントから、自分にあったものを選択する。○テストの間違い直し<ul style="list-style-type: none">・テストで間違えたところをやり直す。	<p>例</p> <ul style="list-style-type: none">○興味がある本を読む。○自分でテーマを決めて、インタビューをする。○ニュースを、5W1Hでまとめる。○家の周りで野外観察をする。○楽器の練習をする。○自分で題材を決め、絵を描く。○自分がしたい運動をする。○家族と一緒に料理を作る。○日記を書く。○苦手なことにチャレンジする。

家庭学習の習慣化と、ねばり強く取り組む態度、創造性や言語能力の育成などの面から、「家庭学習ノート」の活用が考えられます。



宿題についての自校の方針を保護者に伝えましょう

宿題の意義や自校の宿題の方針を、学校全体で確認した上で保護者に伝え、理解と協力を得られるようにしましょう。保護者用リーフレットでは、家庭学習を支える4つのポイントとして、「生活のリズムを整える」「学習の計画を立てる」「学ぶ雰囲気をつくる」「努力を認め励ます」を挙げ、子どもへの具体的な働きかけを例示しました。保護者会等で、4つのポイントを確認したり、発達の段階に応じた保護者の関わり方について話題にしたりするなど、学校と家庭が協力して、家庭学習の充実を図りましょう。

家庭学習を充実させるポイント

意図的、計画的に宿題を出すこと、宿題の内容を工夫すること、保護者の協力を得ることなどにより、家庭学習の習慣化が図られます。学校では、学習の楽しさを実感できる授業を展開し、一人でも学べるように学習の仕方を指導するなどして、子どもに、「家でも学習したい」という意欲をもたせることが大切です。学習の内容や方法に関連をもたせて、家庭学習の充実を図り、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てましょう。



授業と家庭学習をつなぐ工夫をしましょう

◇魅力ある授業で、「家でも勉強したい」「できるようになりたい」などの意欲をもたせましょう。

- ・分かる、楽しい、充実感のある授業を展開する。
- ・優れた作品や技を紹介する。

◇授業や家庭学習のねらいを、子どもに分かりやすく示しましょう。

- ・授業では単元や題材、本時のねらいを示す。
- ・課題を出す際に、家庭学習のねらいを説明する。

◇授業で、個に応じて学習の方法を具体的に指導しましょう。

- ・学習の手順、調べ方、まとめ方などを指導する。
- ・家庭でもできるように、課題解決の方法を指導する。

◇家庭学習強化週間を設定するなどして、家庭学習を習慣化する意識を高めましょう。

- ・学級指導等で、無理のない学習計画を作成させる。
- ・計画を実行できるよう家庭への協力を呼びかける。

◇授業に関連する課題を工夫して出し、予習・復習をさせましょう。

- ・授業で学習したことを活用する宿題を出す。
- ・予習で取り組んだことを生かした授業を設定する。

◇家庭学習ノートを活用するなどして、努力を認め、学習の成果を実感させましょう。

- ・宿題を出したら必ず確認し、コメント等を工夫する。
- ・優れた取組や、よい点を具体的に褒めて紹介する。



宿題から自主学習へ発展させましょう

家庭学習を、生涯にわたって学び続ける態度を養う機会であると考えると、低学年から高学年へ、また小学校から中学校へと、子どもが成長するにつれて、家庭学習の内容が、宿題から子どもの興味・関心に基づく自主学習へと移行していくことが理想です。そのためには、教師の意図的、計画的な指導が大切です。宿題をきっかけに子どもの家庭学習の習慣化を図り、家庭と連携しながら、「自ら学び、考える力」を育てましょう。

